

先哲の教えに 導かれ いまを生きる



二十代のある日、突然原因不明の難病・筋無力症を発病した棚沢青路さん。一方、会社役員として忙しい日々を送っていた四十代にがんに侵された岬龍一郎氏。ともに死の淵から生還し、先哲の教えに出合っ、自らの使命に目覚めて新たな人生を歩んでこられた。生かされた命を精いっぱい輝かそうとそれぞれの道を歩むお二人に、心に残る先哲の教えについてお話しいただいた。

●対談 棚沢青路 & 岬龍一郎

作家

岬龍一郎

みさき・りゅういちろう 昭和21年長崎県生まれ。早稲田大学卒業。情報通信公社、出版社の役員を歴任。著述業の傍ら人材育成のための「人間経営塾（岬塾）」を全国で開催。著書に『いまなぜ「武士道」か』（致知出版社）、「仕事」論（PHP研究所刊）他多数。

エLEGANCE社長

棚沢青路

たなさわ・あおじ 東京都生まれ。明治大学卒業。昭和52年エLEGANCEを設立。全国2万の代理店を通して、化粧品・健康食品等を卸販売。現在関連会社5社を経営。経済同友会理事、赤根塾生友会会長、日本経営道協会副理事長、八洲学園大学委員教授等、要職を多数務める。著書に「愛を夢のままに終わらせない」（文芸社刊）他がある。

「病気にでもなれば……」
自らの心が招いた病

岬 棚沢さんは化粧品会社の経営者で、私とは全然仕事が違うんだけど、何かと気が合ってるね。初めて会ったのは何かのパーティーの時でしたが、共通の知り合いが多いせいか、随分一緒に過ごさせていただく機会が多くなりました。

棚沢 五年くらい前でしたよね。それから岬先生の「武士道」の講演を拝聴して、素晴らしい研究をなさっていらっしゃる先生だと思いました。また、